

令和7年
2025年

6月27日
金曜日

第11742号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



スペインの子羊肉……P6

CONTENTS

- ▶ [牛・豚・鶏肉需給予測] 7月牛肉生産は前年比2.2%減 …… P2
- ▶ 東京食肉市場豚肉営業部が第3回勉強会、シムコの育種技術部・木全部長が講演行う …… P3
- ▶ 丸大食品が第77回定時株主総会を開催 …… P3
- ▶ 全国肉牛振興基金協会が令和7年度定時総会、新理事に佐々木氏、渡辺氏 …… P4
- ▶ 京都食肉2団体が総会一吉岡公取協会長、木村生衛組合理事長の再選決定 …… P4~5
- ▶ イタリア産牛由来製品等の輸入一時停止措置—農水省 …… P5
- ▶ 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査⑦、「量販店と専門店 畜種別販売量の見通し」 …… P5
- ▶ [配合飼料生産量・4月]計199万3625tで前年比1.0%減 …… P6
- ▶ パストレス社が子羊肉「アグネイ・イベリコ」の試食会開催 …… P6
- ▶ [外食産業市場動向・5月]焼き肉は前年同月比9.6%増 …… P7
- ▶ 事業承継調査、約6割が「後継者が決まっている」と回答—日本公庫 …… P8
- ▶ 第3回PRRSフォーラム本大会が9月16日開催へ P8
- ▶ [輸入牛現物相場] 豪州産Fはひき材中心に、ポイントも動き良好 …… P9
- ▶ [ブロイラー市中現物相場] ブラジル産モモ正肉、カット物とも軟調 …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 26日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 26日 …… P11

注目のヘッドライン

[牛・豚・鶏肉需給予測] 7月牛肉生産は前年比2.2%減

農畜産業振興機構は26日、6月、7月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。

…詳細はP2

東京食肉市場豚肉営業部が第3回勉強会 シムコの育種技術部・木全部長が講演行う

…詳細はP3

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930
総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

[牛・豚・鶏肉需給予測] 7月牛肉生産は前年比2.2%減

農畜産業振興機構は26日、6月、7月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。

それによると、牛肉の生産量は6月が2万7200t(前年同月比0.8%減)、7月が3万1400t(2.2%減)と予測。品種別出荷頭数をみると、6月は和牛が4万2千頭、交雑種が2万300頭、乳用種が2万2500頭、7月は和牛が5万800頭、交雑種が2万2800頭、乳用種が2万4200頭とそれぞれ予測している。

輸入量は6月が4万5200t(5.0%減)、7月が4万6600t(5.6%減)とそれぞれ予測。内訳をみると、6月は冷蔵品が1万5300t(13.6%減)、冷凍品が2万9900t(0.3%増)。7月は冷蔵品が1万6600t(12.0%減)、冷凍品が3万t(1.5%減)と見込んでいる。冷蔵品は国内需要が低調にある中、為替

相場や現地価格の高止まりの影響などにより、主要国を含むほとんどの輸入先からの輸入量減少が見込まれること等から、6月、7月ともに前年同月をかなり大きく下回ると予測。冷凍品は、国内需要が低調にある中、主要輸入先のうち米国産は増加が見込まれる一方、為替相場や現地価格の高止まりの影響に加え、輸入品在庫量が比較的高水準であることなどにより、ほとんどの輸入先からの輸入量減少が見込まれること等から、6月は前年同月並み、7月は前年同月をわずかに下回ると予測している。

豚肉の生産量は、6月が7万300t(6.0%増)、7月が7万2100t(0.6%増)の予測。輸入量は、6月が9万200t(10.5%増)、7月が8万8100t(2.3%増)としている。冷蔵品は、米国産の価格が上昇する中、価格優位性が生じたカナダ産の増加が見込まれることなどから、6月はかなり大きく、7月は大幅に、いずれも前年同月を上回ると予測している。冷凍品は、価格優位性にあるブラジル産の増加が引き続き見込まれる中、6月は現地相場の

軟化などを背景にスペイン産の増加が見込まれること等から前年同月をかなりの程度上回る一方、7月は現地相場高の影響によりデンマーク産やメキシコ産の減少が見込まれることなどから、前年同月をかなりの程度下回ると予測している。

また、鶏肉の生産量は、6月は14万6400t(2.2%増)、7月は14万300t(0.4%増)の予測。輸入量は、6月が5万100t(1.5%増)、7月が4万5100t(13.0%減)としている。6月は外食や中食などの好調な需要を背景に、輸入量の増加が見込まれることなどから、前年同月をわずかに上回る一方、7月はタイ産の船積み遅れ等から、前年同月をかなり大きく下回ると予測している。

牛・豚・鶏の需給予測

(単位:トン、%)

	6月		7月		
	頭数	前年比	頭数	前年比	
牛 計	85,300	100.2	98,300	97.8	
和牛	42,000	100.8	50,800	99.4	
交雑牛	20,300	102.9	22,800	100.9	
乳牛	22,500	99.6	24,200	93.4	
豚	1,257,000	105.4	1,303,000	99.4	
部分肉の需給予測					
牛肉	生産量	27,200	99.2	31,400	97.8
	輸入量	45,200	95.0	46,600	94.4
	出回り量	65,700	96.2	73,500	96.8
	月末在庫量	154,100	104.7	158,600	104.4
豚肉	生産量	70,300	106.0	72,100	100.6
	輸入量	90,200	110.5	88,100	102.3
	出回り量	145,200	100.8	150,900	96.2
	月末在庫量	253,500	116.3	262,800	120.1
鶏肉	生産量	146,400	102.2	140,300	100.4
	輸入量	50,100	101.5	45,100	87.0
	出回り量	194,800	102.5	193,600	100.7
	月末在庫量	156,800	92.4	148,600	87.9
輸入量の内訳(部分肉ベース)					
牛肉	冷蔵	15,300	86.4	16,600	88.0
	冷凍	29,900	100.3	30,000	98.5
	合計	45,200	95.0	46,600	94.4
豚肉	冷蔵	34,500	114.2	33,700	121.1
	冷凍	55,700	108.3	54,400	93.3
	合計	90,200	110.5	88,100	102.3

東京食肉市場豚肉営業部が第3回勉強会 シムコの育種技術部・木全部長が講演行う

東京食肉市場(株)は25日、第3回豚肉営業部勉強会を開催した。今回取り扱ったテーマは、種豚および母豚の特徴、国産と海外産との違いなど。種豚の生産・開発を行う(株)シムコの育種技術部・木全誠部長が、「種豚生産からみる日本養豚の今後について～銘柄豚の行方～」と題して講演を実施した。講演の要旨は次の通り。

木全氏はシムコの生産体制や販売種豚を説明した後、改良ポイントについて、雌系は体質の軟らかさや適度な背脂肪厚、雄系は肉豚の強健抗病性につながる適正な骨格肢蹄に加え、カナダ産との差別化を図りながら“日本一おいしいテーブルミート”を目指すことなどを挙げている。さらに、育種改良のためのデータ取得やその審査・調査について、同社が取り扱うデュロック種「パワーボム」(雄)の増体重や背脂肪厚、ロース断面積のデータを基に、年別での改良の推移を示した。

続いて、種豚系統別に肉豚生産を説明する中で、国内の母豚のうち、現在はおよそ6割が国産、4割が海外産であり、海外産種豚が繁殖性の改良において優れていることから、今後は後者が増加すると指摘し、雌系は海外産、止め雄は国産という生産体系が増えたと予想。その半面、アフリカ豚熱や社会情勢、アニマルウエルフェア(輸送中の生体への負担など)の関係で海外からの種豚輸入が滞るリスクがあると指摘している。国産・海外産を比較すると、海外種豚は産子数や飼料要求率が特長で、国産種豚は肉質や飼いやすさ、強健性に優れているとしている。

今後の展望については、まず海外種豚の動向とし



て、大手メーカー間での競争の激化や統廃合が進む他、独特な食文化や評価基準が日本のニーズに合わない点に言及。一方、国内肉豚生産は肉質志向と効率志向の二極化やその影響が懸念される。また、高品質な銘柄豚は減少していく可能性があるが、相対的評価はその分向上するべきであり、そのような優れた豚肉への高い評価が価格に反映され、再生産可能な仕組みが構築されることが必要となる。

シムコとしても、国内の改良拠点で日本向けの育種改良を行い、その上で日本の食文化や国産豚肉の品質維持、食料安全保障に寄与する方針だ。同社は今後、多様な肉豚生産の在り方を守りつつ、産官学研究の推進、関連業界・団体との連携の下、引き続きおいしい豚肉生産に貢献していく。

なお、会場には生産関係者、購買者、同市場の豚肉営業部に所属する従業員らが集まり、質疑応答の時間では木全氏に多くの質問が投げかけられた。種豚への関心や理解を深めるとともに、関係者同士でのコミュニケーションの場にもなり、閉会後にも互いに親睦を深めながら活発に意見が交わされた。

丸大食品が第77回定時株主総会を開催

丸大食品は26日、大阪府高槻市の高槻城公園芸術文化劇場の太陽ファルマテックホールで第77回定時株主総会を開催。31人の株主が出席した。

総会では剰余金の処分、取締役6人の選任、監査役1人の選任、補欠監査役1人の選任、取締役の報酬額改定、取締役に対する業績連動型株式報酬等

の額および内容決定—の6議案が諮られ、いずれも原案通り承認された。

今回、森本芳史、池田知功、中野由里の3氏が新たな取締役、中根正人氏が新たな監査役に就任した。

全国肉牛振興基金協会が令和7年度定時総会、新理事に佐々木氏、渡辺氏

一般社全国肉用牛振興基金協会(森山裕会長)は25日、東京都文京区の全水道会館で令和7年度定時総会を開催した。

総会冒頭、公務のため出席できなかった森山会長に代わり村上貴夫副会長(写真)が「畜産経営は厳しい経営環境下に置かれているが、昨年の食料・農業・農村基本法の改正も契機として、より一層の食料安全保障の確保につながる生産性の向上や自給飼料の増産といった取り組みに加え、環境負荷の低減につながる取り組みの推進が必要となってきた。協会は会員団体との組織的な連携も強化し、多様なニーズに対応した持続可能な肉用牛生産の振興、各種情報の提供・発信を行っていく」とあいさつ。来賓として農水省畜産局食肉鶏卵課の伊藤大介課長、農畜産業振興機構の天羽隆理事長が祝辞を述べた。議事に移り、6年度事業、公益目的支出計



画実施報告がなされ、6年度決算、7年度の事業計画、収支予算、会費および賛助会費の額と徴収方法などが原案通り承認された。

柴本智彦理事、北村元一理事の退任に伴う理事選任が行われ、新たな理事に佐々木啓氏(静岡県畜産協会)、渡辺千春氏(滋賀県畜産振興協会)が就任することが承認された。

京都食肉2団体が総会—吉岡公取協会長、木村生衛組合理事長の再選決定

京都府食肉公正取引協議会(吉岡浩人会長)、同食肉生活衛生同業組合(木村昌彦理事長)は25日、京都市南区の京都食肉会館で令和6年度通常総会を開催した。公取協は第49回、生衛組合は第67回。

総会は生衛組合、公取協の順で進行。冒頭、木村理事長が「先日、生活衛生組合の全国大会が開かれ、来年は京都府での開催が決まった。2005年以来、約20年ぶりのことで非常に光栄なことだが、一丸となって成功させるため、皆さまにはご協力をお願いしたい。われわれは消費者に安全・安心な食肉を供給することを徹底するとともに、HACCPに基づく衛生管理や従業員の健康管理などをもう一度よく考えていきたい。原料や資材の高騰、人手不足で厳しいが、組合が行う政策金融公庫の融資あっせんなどを活用し、経営基盤の安定を図っていただきたい」とあいさつした。

続いて事務局から先般行われた生衛組合全国大会で肥後辰彦会長が退任し、大阪府の池田清昭氏



が新会長、木村氏が副会長に就任したことが報告された。

議事では、令和6年度事業報告、同決算報告、賦課金ならびにその徴収方法、7年度事業計画案・収支予算案、同借入金の最高限度額、振興計画の変更承認、役員改選、その他について審議し、いずれも原案どおり可決。

議案審議終了後には事務局から、福祉共済制度への加入案内や現在の加入状況などについて説明

が行われた。また、選出された役員候補者による理事会では木村理事長が再選され、「微力だが、改めて来年の全国大会へのご協力をお願いしたい」とあいさつした。

小憩の後に開かれた総会の冒頭、吉岡会長は「京都の食肉は4団体あり、それぞれに全国組織がある。本会は消費者庁の所管となっており、皆さんも適正な表示の下に販売を行っていただいているが、一部で不適切な表示があれば全ての信頼が壊れてしまう。引き続き、しっかりと消費者のために意識を高く持って販売に取り組んでいただきたい」とあいさつ。

議事では、6年度事業報告・同決算書、7年度事業計画案、役員改選、その他について審議し、すべて原案どおり承認。事務局からは短時間労働者に対する被用者保険適用拡大の概要について説明が行われた他、食鳥組合については解散のため、企業ごとに個別で加入する旨報告があった。その後開かれた役員改選候補者による理事会で吉岡会長を再選。吉岡会長は「引き続き講習会の開催などを予定しているが、適正表示徹底のためにも参加をお願いしたい」とあいさつした。

イタリア産牛由来製品等の輸入一時停止措置——農水省

農水省は24日、イタリアのサルデーニャ島の牛において、ランピースキン病(LSD)の発生確認が、イタリア家畜衛生当局から国際獣疫事務局(WOAH)へ通報されたことを受け、本病のわが国への侵入防止に万全を期するため、イタリア産牛由来製品等(牛

精液、牛内臓製品、飼料用に供する偶蹄類動物由来の乳製品(加熱処理が確認されたものを除く))について輸入一時停止措置を講じた。

なお、生きた牛については、2国間で輸入条件が設定されていないため、従前より輸入できない。

農畜産業振興機構、食肉販売動向調査⑦ 「量販店と専門店 畜種別販売量の見通し」

25年度上半期の量販店における食肉販売量見通し(重量ベース)について、今期(24年度下半期)との比較で、和牛、輸入豚肉、国産鶏肉は「増加」が多かった一方、乳用牛、輸入牛肉は「減少」が多かった。それ以外の区分は「同程度」が最も多かった。

和牛、国産鶏肉は55・0%、輸入豚肉は50・0%が「増加」となっており、その増加割合をみると、和牛、国産鶏肉は「5%未満」、輸入豚肉は「5~9%」がそれぞれ最も多かった。

増加理由については、和牛、輸入豚肉は「販促強化」、国産鶏肉は「消費者の低価格志向」がそれぞれ最も多かった。

一方、乳用牛は46・2%、輸入牛肉は45・0%が「減少」となっており、その減少割合をみると、「マイナス5%未満」がそれぞれ最も多かった。

減少理由については、乳用牛は「他畜種/品種との需要シフト」「販促減少」「原価高」輸入牛肉は「原価高」がそれぞれ最も多かった。

25年度上半期の食肉専門店における食肉販売見通し(重量ベース)は、今期(24年度下半期)との比較で、全ての区分で「同程度」が最も多い中、国産豚肉、国産鶏肉、輸入鶏肉は「増加」が「減少」を上回った一方、和牛、乳用牛、輸入牛肉は「減少」が「増加」を上回った。

増加理由については、国産豚肉は「消費者の低価格志向」が最も多く、次いで「他畜種との需要シフト」、国産鶏肉は「他畜種との需要シフト」が最も多く、次いで「消費者の低価格志向」、輸入鶏肉は「他畜種との需要シフト」が最も多く、次いで「消費者の低価格志向」および「値下げによる影響」となった。

減少理由については、和牛は「消費者の低価格志向」、乳用牛は「消費者の低価格志向」および「景気状況」、輸入牛肉は「値上げによる影響」がそれぞれ最も多かった。(連載続く)

【配合飼料生産量・4月】計199万3625tで前年比1・0%減

農水省が20日に公表した4月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況(速報版)によると、生産量は199万3625t(前年同月比1・0%減)、出荷量は199万9049t(1・5%減)となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が46万6405t(0・6%減)、出荷量が47万2873t(1・2%減)、ブロイラーは生産量が32万1779t(3・4%減)、出荷量が32万2341t(1・3%減)となっている。育すうは生産量が5万6779t(9・8%増)、出荷量が5万6991t(7・0%増)と前年同月を上回った。

養豚用の肉豚は生産量が19万6198t(0・6%増)、出荷量が19万7689t(1・8%減)、子豚は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が40万9968t(1・5%減)、出荷量は41万1053t(1・9%減)。肉牛用のうち子牛用は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況

単位:トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	844,963	98.9	852,205	99.3	11,318
	育すう	56,779	109.8	56,991	107.0	1,282
	成鶏	466,405	99.4	472,873	98.8	5,068
	ブロイラー	321,779	96.6	322,341	98.7	4,968
養豚用	計	453,693	99.3	454,645	97.4	14,798
	ほ乳期	57,088	98.1	55,837	96.9	6,599
	子豚	120,399	96.4	120,980	94.6	2,608
	肉豚	196,198	100.6	197,689	98.2	3,638
養牛用	種豚	80,008	102.0	80,139	100.4	1,953
	乳牛用計	280,507	99.3	276,975	98.9	29,872
	うち子牛用	15,704	105.0	14,893	99.7	3,872
	肉牛用計	409,968	98.5	411,053	98.1	31,135
	うち子牛用	60,311	96.1	59,418	94.9	9,687

注:工場数132

パストーレス社が子羊肉「アグネイ・イベリコ」の試食会開催

スペイン北部、アラゴ州にあるOviarag ón Grupo Pastores(パストーレス)は24日、自社ブランドである子羊肉「Agnei Iberico(アグネイ・イベリコ)」を日本国内向けに普及するため、試食会を開催した。

アグネイ・イベリコは、パストーレス社とサラゴサ大学が協力し、産学共同研究により生まれたブランド羊。アラゴン種の羊は生後母乳のみで45日、その後は穀物飼料(とうもろこしとひまわりの種)で肥育され、ストレスのない生育方法により、軟らかくジューシーな肉質となっている。そして最大の特長はイベリコ豚と同じく高いオレン酸(50%以上)を含んだ脂。サシの入った赤身肉は、他の羊肉にないおいしさを演出する。豊富な栄養素とヘルシーさ、またハラ-

ルフードとしてもますます注目される羊肉だ。

冒頭、ラファエル・デ・スースエキスパートマネジャー(写真)は、「今回は、カタ肉、モモ肉、フレンチラックの三つの部位を用意した。ぜひゆっくりと堪能していただきたい」とあいさつした。



試食会では、キャンペーン初となる女性シェフ、日比谷パレスの前野彩夏氏監修による、「アグネイ・イベリコ」の各部位(カタ肉、モモ肉、フレンチラック)を使ったランチコース(低温調理を施した子羊カタ肉のタルタルレモン香るサラダ仕立て、子羊モモ肉“メダリオン”と初夏のかぶナバラン風、子羊背肉の炭火焼なすと舞茸 実山椒のソース)が提供された。

【外食産業市場動向・5月】焼き肉は前年同月比9・6%増

一般社団法人日本フードサービス協会が公表した外食産業市場動向調査によると、5月は大型連休が飛び石連休となったが、むしろ近場での人出が増え連休中の需要は堅調に推移し、連休明け以降の落ち込みも比較的少なかったことから、外食全体の売り上げは10・8%増となった。インバウンド需要が引き続き好調で、大阪周辺の繁華街やターミナル駅立地では、大阪・関西万博の集客がプラスに働いた。人手不足の常態化と原材料価格の高騰が続く中で、外食事業者も値上げせざるを得ない状況にあると、消費者には理解されるようになってきたが、先行き不透明の状況下で実際にはぎりぎりの調整が続いている。

ファストフード業態の売り上げは11・8%増となった。「洋風」は、人気キャラクターとのコラボ商品やお得なランチメニュー等が好調で、売り上げ15・2%増。「和風」は、客数がやや弱かったものの、週替わりの定食メニュー等が好調で、売り上げ9・9%増。「麺類」は気温の上昇とともに冷めたいメニューが伸びたほか、うどん業態では無料トッピングの拡充が好評で、売り上げ11・1%増。「持ち帰り米飯／回転ずし」は、引き続き値上げの影響で客数が伸び悩んだが、客単価上昇で、売り上げ5・8%増。「その他」は、「カレー」がボリューム感のある期間限定メニューが、「アイスクリーム」はまとめ買いがお得なテイクア

ウトメニューが好評で、売り上げ8・4%増となった。

ファミリーレストラン業態は全体売り上げ10・4%増となった。ファミリーレストランは、大型連休や母の日などのハレ需要が例年通りのにぎわいとなったほか、引き続き、低価格業態やお得なセットメニューが好調で、「洋風」は売り上げ8・5%増。「和風」は、食べ放題の店舗が引き続き好調、また一部トンカツ専門店ではインバウンド需要が旺盛で、売り上げ11・4%増。「中華」は、各種キャンペーンの好調が続き、売り上げ16・3%増となった。「焼き肉」は、若年層向けのフェア開催により平日集客が好調で、売り上げは9・6%増となった。

パブ・居酒屋業態など飲酒業態は、月後半を中心に客足が戻った。勢いのあるインバウンド需要と、大阪・関西万博による集客増もあり、売り上げは4・8%増と前年を上回った。

ディナーレストラン業態は引き続きお得感のある平日ランチメニューの好調や、インバウンド需要の好調、また万博開催中の大阪周辺ではホテル立地の店舗が好影響を受け、売り上げ8・0%増となった。

喫茶業態は原材料価格の高騰に起因する価格改定が客足に影響するところもあったが、関西地区のターミナル駅立地では万博需要もあり、売り上げ9・7%増となった。

外食産業市場動向(全店)

単位:社、店、%(前年同月比)

業態	事業者数	店舗数	売上高	店舗数	客数	客単価
全体	(N=220)	(N=36213)	110.8%	100.7%	104.9%	105.6%
ファストフード合計	(N= 51)	(N=21074)	111.8%	101.3%	105.1%	106.3%
洋風	(N= 18)	(N=6093)	115.2%	101.6%	111.1%	103.7%
和風	(N= 15)	(N=5332)	109.9%	102.4%	100.7%	109.1%
麺類	(N= 17)	(N=3142)	111.1%	100.6%	104.3%	106.5%
持ち帰り米飯・回転ずし	(N= 17)	(N=4079)	105.8%	99.8%	97.6%	108.5%
その他	(N= 9)	(N=2428)	108.4%	101.5%	101.6%	106.7%
ファミリーレストラン合計	(N= 64)	(N=9756)	110.4%	99.7%	105.8%	104.3%
洋風	(N= 31)	(N=4818)	108.5%	97.9%	105.7%	102.7%
和風	(N= 30)	(N=2329)	111.4%	101.1%	104.6%	106.6%
中華	(N= 14)	(N=1230)	116.3%	103.2%	107.8%	107.9%
焼き肉	(N= 16)	(N=1379)	109.6%	100.5%	105.8%	103.6%
パブ・レストラン／居酒屋合計	(N= 37)	(N=1794)	104.8%	100.3%	102.0%	102.7%
パブ・ビアホール	(N= 11)	(N=394)	103.0%	102.3%	101.3%	101.7%
居酒屋	(N= 30)	(N=1400)	105.7%	99.7%	102.4%	103.2%
ディナーレストラン(計)	(N= 24)	(N=892)	108.0%	101.6%	107.9%	100.0%
喫茶(計)	(N= 24)	(N=2477)	109.7%	100.7%	100.6%	109.0%
その他(計)	(N= 20)	(N=220)	101.7%	89.1%	99.8%	102.0%

事業承継調査、約6割が「後継者が決まっている」と回答—日本公庫

日本政策金融公庫はこのほど、経営者の年齢が60歳以上の生活衛生関係営業の企業1785企業(うち、食肉・食鳥肉販売業88企業)を対象に事業承継に関するアンケート調査を行い、その結果(生活衛生関係営業の景気動向等調査・特別調査結果2025年1~3月期)を公表した。

それによると、経営者の年齢が60歳以上の生活衛生関係営業の企業に対し、事業承継の意向を尋ねたところ、「意向あり(第三者への売却・譲渡を含む)」が47.3%、「意向なし」が21.8%、「現時点では考えていない」が30.8%となった。食肉・食鳥肉販売業では、「意向あり」が63.6%、「意向なし」が9.1%、「現時点では考えていない」が27.3%となった。従業員別にみると、従業員の比較的多い企業(6~10人、11人以上)では「意向あり」が7割以上を占めた一方、2人以下の企業では27.9%にとどまった。2025年1~3月期の採算状況別にみると、「意向あり」と回答した企業の割合は、黒字企業では65.7%、収支トントンの企業では46.4%、赤字企業では38.8%であった。

事業承継の「意向あり」と回答した企業に対し、後継者の有無を尋ねたところ、「後継者が決まっている」が58.7%、「後継者候補はいる」が20.9%、

「後継者はいない(後継者候補もない)」が20.4%となった。「後継者が決まっている」「後継者候補はいる」と回答した企業に対し、後継者(候補含む)との関係を尋ねたところ、「子ども」が78.6%と、8割近くを占め、「血縁者以外」は13.6%にとどまった。食肉・食鳥肉販売業では「後継者が決まっている」が58.9%、「後継者候補はいる」が25.0%、「後継者はいない」が16.1%と同じような傾向だったが、後継者は「子ども」が61.7%、「血縁者以外」が23.4%と2割を超えた。

事業承継の「意向なし」と回答した企業に対し、その理由を尋ねたところ、「後継者がいない」(58.9%)との回答割合が最も高く、次いで「当初から自分の代でやめようと考えていた」(55.5%)、「業績が悪い」(26.6%)の順となった。食肉・食鳥肉販売業では、「後継者がいない」「当初から自分の代でやめようと考えていた」が50.0%、「業績が悪い」が37.5%となった。また、事業承継の意向について「意向なし」「現時点では考えていない」と回答した企業に対し、第三者から事業を引き継ぎたいと打診があった場合の考えを尋ねたところ、「事業承継を検討する」が24.3%で、食肉・食鳥肉販売業も25.0%と同じような割合となった。

第3回 PRRS フォーラム本大会が9月16日開催へ

「PRRSフォーラム」の第3回本大会が9月16日に開催されることが発表された。対面およびオンラインのハイブリッド形式で、対面では神奈川会場と宮崎会場の2カ所で行われる。

「PRRSフォーラム」は、国内養豚業界で深刻な脅威となっている豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)に対して、産官学の連携を基軸にネットワークを構築し、各分野の知識・技術・知恵を結集して、オールジャパン体制で対策に取り組むことを目的として、2023年に発足。これまでに2回開催されており、養豚生産者、獣医師、研究者、行政担当者、企業関係者など、各関係者が立場を超えて一堂に会し、相互に連携しながら解決策を模索する場となった。第3回本

大会では、生産現場の実情を踏まえたより実践的な対策の検討を目的として、事前アンケートを通じて現場での課題を共有しながら、参加者全体で協議を行う予定。また、現地に根ざしたPRRS対策を共に考えるために、今回は本会場を麻布大学、サテライト会場を宮崎大学に設置し、地域にかかわらず参加しやすい生産者同士のパネルディスカッションも実施する。

日時=9月16日10時~18時30分▷対面会場=[神奈川会場]麻布大学(神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71)、[宮崎会場]宮崎大学木花キャンパス(宮崎市学園木花台西1-1)▷参加費=2千円(一般)、無料(学生)▷詳細・参加登録など=PRRSフォーラム公式HP(<https://prrs-forum.jp/>)

【輸入牛現物相場】豪州産 F はひき材中心に、ポイントも動き良好

豪州産チルドはカタ、モモ中心の引き合いが続いている。一方でポイント、ナーベルなどは動きが重く、在庫が増えつつある。ロインやランプは現地の相場高もあり買い付けができておらず、市中在庫はタイトだ。米国産チルドはバラ系中心に動きが重い。チャックアイロールは相場を維持してそれなりに動いているが、ショートプレートは鈍い。

豪州産フローゼンはひき材中心の引き合いで、ポ

	商品名	グラス	ショートグレイン
豪州産 C	トップサイド	1,350 ~ 1,400	1,400 ~ 1,500
	シックフランク	1,330 ~ 1,430	1,450 ~ 1,550
	アウトサイド	1,270 ~ 1,350	1,380 ~ 1,450
	ポイント	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	ナーベル	1,150 ~ 1,250	1,180 ~ 1,250
	ランプ	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,950
	クロッド	1,270 ~ 1,400	1,340 ~ 1,450
	チャックロール	1,450 ~ 1,550	1,550 ~ 1,650
	チャックテンダー	1,420 ~ 1,600	1,500 ~ 1,700
	キューブロール	3,200 ~ 3,500	3,970 ~ 4,600
ストリップロイン	2,180 ~ 2,400	2,450 ~ 2,700	
テンダーロイン	3,950 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800	
豪州産 F	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,300 ~ 1,350	-
	ナーベル	980 ~ 1,150	-
	カウミート	980 ~ 1,200	-
	トップサイド	1,300 ~ 1,400	-
	シックフランク	-	-

イントも動いている。米国産はショートプレートの在庫量が多く、現地価格の変動影響から国内相場も下落。900円台前半での取引も散見される。

豪州産の相場環境は現在を高値のピークとして、下がるのではないかという見方がある。現地では相場高によって各国の買い気が下がっているからだ。その一方で米国産は、それとは逆に現在を底値とみている企業もある。「関税問題などの情勢の影響から日本向けに安いオファーが来ている」「国内の需給が逼迫していない」という環境がそろった上で、現在の価格が実現している。円安が一時よりも落ち着いたといっても、以前の環境に戻ったとは考えられないし、米国の牛肉生産量も依然として少ない。今後は相場が上がる要素の方が多いと考えられる。

	商品名	チルド	フローゼン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,650 ~ 1,750	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,150 ~ 1,250	980 ~ 1,100
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,200 ~ 3,510	3,300 ~ 3,400
	ストリップロイン(チョイス)	3,300 ~ 4,000	-
	リブアイロール(リップオン)	5,000 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
	チャックアイロール(チョイス)	1,950 ~ 2,450	1,650 ~ 1,850
	同(プライム)	2,500 ~ 2,600	1,800 ~ 2,500

【ブロイラー市中現物相場】ブラジル産モモ正肉、カット物とも軟調

◇国産物 生鮮モモは需要の薄い真夏に向かい動きは鈍いものの、日経加重平均の東京相場は830円前後と高値でのもちあいが続いている。涼味食材として引き合いが強まった生鮮ムネはややジリ高で530円台後半まで値を上げた。冷凍物はおおむねもちあいで推移している。

◇輸入物 ブラジル産はモモ正肉、カット物とも値を下げた。「輸入豚肉など他の畜種の入荷が増えているため、庫腹を確保するためにブラジル産鶏肉が売られた」との声も

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	630~680
ムネ正肉(〃)	440~460
手羽モト(〃)	290~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

きかれた。一方で、鳥フルの発生からブラジル産の輸入を停止していた韓国などが、輸入条件を緩和させており、現地オファーはやや強気という。

単位:円/キロ

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	550~570
ブラジル産モモ正肉	420~430
ブラジル産モモ角切り	430~450
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 6月26日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,471	2,542	2,011	-	-
		安値	2,128	2,014	1,874	-	-
		平均	2,439	2,102	1,951	-	-
		71頭 頭数	45	22	4	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	1,837	1,228	-
		2頭 頭数	-	-	1	1	-
	去 A	高値	2,813	2,219	2,044	-	-
		安値	2,052	1,944	1,941	-	-
		平均	2,390	2,094	1,982	-	-
		120頭 頭数	75	35	10	-	-
去 B	高値	-	-	-	1,228	-	
	安値	-	-	-	1,219	-	
	平均	-	-	1,907	1,224	-	
	3頭 頭数	-	-	1	2	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	30頭 平均	-	1,684	1,598	1,426	-
		頭数	-	3	20	7	-
	雌 C	-頭 平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
去 B	26頭 平均	-	1,616	1,609	1,441	-	
	頭数	-	7	12	7	-	
去 C	9頭 平均	-	-	1,428	1,344	-	
	頭数	-	-	6	3	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	230 337	796 665	- 172.0	(競り)	(相対)	- 49

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,245	1,569	1,543	1,429	-
	B	-	1,408	1,424	1,340	1,269
和 去	A	2,090	1,952	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,034	1,037
	C	-	-	-	1,034	1,017
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,665	1,527	1,351	-
	C	-	-	-	1,363	-
交 去	B	1,718	1,667	1,528	1,453	-
	C	1,690	1,358	1,495	1,376	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	902	890	875	754	725
	安値	780	743	698	464	400
	平均	839	779	751	670	488
	頭数	(9)	(312)	(234)	(72)	(38)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 6月26日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,322	2,013	-	-	-
(頭数)	(4)	(5)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,390	2,006	-	-	-
(頭数)	(7)	(6)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	1,920	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,725	1,585	1,527	-
C	-	-	1,546	1,521	-
交雑去 B	2,111	1,737	1,616	1,502	-
C	-	1,609	-	1,502	-
豚	-	-	784	622	481

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	6月26日	6月25日	(6月累計)
豚	60,600	54,200	1,112,500
成牛計	3,150	4,110	75,170
和牛雌	760	1,010	19,490
和牛去勢	960	1,130	20,400
乳牛雌	600	670	10,460
乳牛去勢	340	310	7,770
交雑雌	270	490	7,520
交雑去	210	500	9,460

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 6月26日

東京	大阪
1,521円(前日 1,414円)	1,565円(前日 1,575円)

[豚・全農建値] 6月26日

上	中	取引頭数	市況
784円	758円	1,075頭	急伸

と畜 売買	牛 42頭 牛 69頭	豚 55頭 豚 87頭	牛概況 豚概況	反発 まちまち
----------	----------------	----------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 6月26日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	745 (745)	- (-)	-	-	もちあい
仙台 [中]	649 (670)	580 (621)	397	25	-
栃木 [地]	756 (768)	718 (743)	1,587	16	下押し
茨城 [地]	789 (786)	756 (755)	857	625	上伸
群馬 [地]	794 (759)	696 (662)	1,735	150	反発
さいたま [中]	792 (766)	775 (751)	120	121	反発
東京 [中]	779 (773)	751 (748)	796	665	小幅上伸
横浜 [中]	781 (777)	749 (745)	627	609	もちあい
山梨 [地]	771 (792)	749 (735)	191	164	続落
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	779 (-)	758 (-)	856	150	下押し
京都 [中]	783 (-)	754 (-)	75	80	もちあい
大阪 [中]	- (809)	784 (783)	55	54	-
神戸 [中]	713 (-)	701 (-)	48	115	-
岡山 [地]	635 (737)	591 (720)	223	321	暴落
広島 [中]	- (-)	- (771)	299	12	-
福岡 [中]	760 (761)	727 (728)	362	108	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 6月19日～6月25日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,654,187 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,242	1,364	1,416	1,347	75,665
うで	842	939	983	927	124,654
ロース	1,145	1,261	1,412	1,255	152,930
ばら	1,274	1,368	1,423	1,366	139,802
もも	842	868	929	872	199,067
ヒレ	1,048	1,242	1,277	1,210	14,727
セット	1,080	1,108	1,188	1,119	947,342

◇近畿圏 総重量 683,475 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,274	1,450	1,513	1,432	56,398
うで	799	902	922	880	102,912
ロース	1,210	1,299	1,380	1,295	89,895
ばら	1,299	1,398	1,476	1,388	119,589
もも	867	896	972	900	159,952
ヒレ	1,242	1,379	1,512	1,369	10,786
セット	1,042	1,178	1,224	1,171	143,943

[食鳥正肉日経相場] 6月25日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	735	788	1,030	6
ムネ	485	527	620	4

[農水省統計情報部食鳥市況] 6月24日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,103	748	550	600	650
安値	720	475	290	360	350
平均	845	550	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間中(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉通信社の本

2025数字でみる食肉産業

最新刊

最新の食肉データを収録



定価

4,191円

(本体 3,810円 + 税別)

◆図書名=「2025数字でみる食肉産業」
◆体裁=B5判468ページ ◆内容=食肉需給と見通し、食肉生産の動向、家畜と生産、飼料の動向、食肉輸入の推移、WTO・EPA等の合意内容、畜産業振興事業、家畜疾病と食肉流通、トレーサビリティ関連、在庫・出回り量、食肉消費と支出金額、食肉価格の推移、食肉加工品の動向、食肉関連製品の動向、食肉販売の動向、外食の動向、世界の食肉統計、日本の主要食肉生産者・食肉取扱施設

お申し込みは食肉通信社 (FAX=06-6538-5510) まで

年 月 日

2025 数字でみる食肉産業 購入申込書

会社名(氏名)

購入部数

冊

〒

所在地(住所)

ご担当者名

TEL

株式会社

食肉通信社

大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06 (6538) 5505 FAX 06 (6538) 5510

東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03 (6206) 0929 FAX 03 (6206) 0928

九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092 (271) 7816 FAX 092 (291) 2995